

根管治療材料やマイクロスコープの進化が与えた日常臨床への変化



加藤 真悟

Shingo Kato

アスヒカル歯科

Asuhikaru Dental Clinic

歯科材料の進歩や歯科機械の技術革新は、私達の臨床をより快適なものにしてきました。

1990年代前半に日本でも発売を開始した Ni-Tiファイルは、現在では熱処理技術によってさらに柔軟性が向上し破折しにくいものに進化を遂げました。歯内療法材料の進歩は根管拡大だけでなく、複雑な形態でも効率よく洗浄が可能なシステムや硬化膨張型のバイオセラミックシーラーを用いた根管充填など多岐にわたり、その結果としてより歯質を保存した治療も可能としてきました。

また、マイクロスコープにおいても技術革新の恩恵は大きく、フォーカス調整範囲の増大や明るいLED光源、画像システムの内蔵など、いままで術者が知らず知らずのうちに抱えてきたストレスを軽減させ、より快適な診療を可能としています。

本日は歯内療法をとりまく材料の進歩を振り返るとともに、材料の特性を知り正しく使うことでより診療が快適になることや、日ごろのマイクロスコープの活用についてもご紹介いたします。

皆様の日々の臨床上ストレスが少しでも楽にできるヒントをご紹介できればと思います。

講師経歴

- 2008年 国立大学法人北海道大学歯学部卒業
- 2014年 アスヒカル歯科都島 開業
- 2017年 根管治療専門外来 開始(根管治療大阪クリニック)
- 2018年 医療法人湧光会 開設

所属

- 日本顕微鏡歯科学会 会員
- 日本歯内療法学会 会員
- AAE(アメリカ歯内療法学会) スペシャリストメンバー
- General Endodontics 主宰
- 大森塾ベーシックエンドコース 講師